

猫免疫不全ウイルス (FIV)

★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子用に材料を分けてください。

項目名	検査材料	送付方法	所要日数	検査方法	検査項目の説明、注意事項
FIV 遺伝子★	 全血 (EDTA 処理) 0.4mL	 常温 冷蔵	5日以内	PCR	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染後宿主 (猫) のゲノムに組み込まれた FIV プロウイルス (DNA) を検出します。 2. FIV ワクチンによる抗体や移行抗体が存在している場合や末期で免疫機能が著しく低下している場合など、抗体検査で診断できない症例で有効です。 3. 凝固したサンプルでは検査が実施できないことがあります。 4. 検査対照 (内在性コントロール) として血液中の FG3PDH 遺伝子の検出も同時に行います。この遺伝子は感染に関わらずすべての猫の血液から検出されるため、今回の受託に際して適切な材料が適切に処理されたか (特に凝固サンプルの際に DNA の抽出が適切に実施できたか) をチェックすることができます。 5. 家猫以外の猫科動物 (ライオン、チーターなど) の FIV との反応性については不明です。
FIV 抗体	 血清 (血漿)  胸腹水 0.1mL	 常温 冷蔵	3日以内	IP-C	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胸腹水でも検査可能です。 2. 感染母猫から生まれた子猫は 16 週齢あたりまで移行抗体を保持し、非感染にもかかわらず抗体陽性となる場合があります。 3. 家猫以外の猫科動物 (ライオン、チーターなど) でも検査可能ですが、若干検出感度が下がることがあります。 4. 感染後抗体が上昇するまでの期間 (1 ~ 2 ヶ月間程度) (下表 A) や AIDS 期で免疫機能が著しく低下した場合 (下表 B) は感染しているにもかかわらず抗体が検出されないことがあります。 <p>ワクチンの影響</p> <p>FIV ワクチンを接種された猫では非感染にもかかわらず抗体陽性となる場合があります。</p>

【FIV 感染例の抗体の推移】

